

巖谷一六 いぼや 書家、漢詩人。天保五年二月八日近江國生れ、明治二十八年七月十一日没（八三—九五）。謙修、字誠卿、幼名辨治、立的。別號一六居士、一六老人、不知老人、古梅、古梅園、古梅居士、古樸、吞澤山人、喻霞樓主人、巖谷汗堂、踰霞仙史、汗堂、逸鹿、逸鹿老漁、金粟、金粟道人等。水口藩侍醫巖谷文通の子。京大醫術を修む傍ら中江寧城の書屋を學ぶ。歸藩後藤木鐵石、松本奎堂等と交友し國事を奔走。慶應四年徴士議政官中官となり、當時の詰勅、制令等の多くを筆を執る。のち大政官大書記官、修史館監筆、内閣書記官、元老院議員、錦鶏間祇候、貴族院議員等歴任。書は初め巻菱湖流を能くしたが、明治十三年來朝の楊守敬の師事して一變、自家一流を成すに至りた。また漢詩文の長じた。巖谷小波の父。

著書に『行書千字文』（明治十四年九月十一日山中孝之助刊）、『三體千字文』（明治十八年七月文盛堂）、『新選往復用文』（明治十九年四月）『日文玉圃・文選釋』（『漢行草千字文』（明治二十四年八月一日山中孝之助・杉本七百九刊）、『行書東湖正氣歌』（明治二十五年二月）『二十一日井瀨堂・山中孝之助刊）、『四體溪川帖』（昭和二十六年九月二十日大阪・田中求榮堂）、『聖諭帖』（明治四十二年十月精華堂法帖店）、『一六遺稿』全二冊（明治四十五年五月慈言・男春生編、無刊記）等。

